

第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会 意見回答

| 番号 | 意見の概要 | 回答 |
|----|-------------------|--|
| 1 | 企業誘致。実際に大企業誘致見込は？ | 大企業の誘致見込みはないが、企業のサテライトオフィスであれば可能性としてはあり得ると考えます。現在、誘致条件等の整備を検討中です。 |
| 2 | 中高一貫校等特色ある学校づくりは？ | <p>現在、安芸高田市には県立高校が2校ありますが、ともに所管は広島県教育委員会であり、安芸高田市立中学校との中高一貫校とするには、今後、多面的な調査・研究・調整が必要です。現在、市内各中学校では、高等学校と連携した教育活動にも取り組んでいます。特に、向原中高では、連携が進んでいます。</p> <p>安芸高田市の義務教育では、小・中学校ともに小規模校が大半であること、学校も地理的に隣接していないこと、統廃合を計画していることなどの地域実態を踏まえ、特色ある教育活動として、従前より小中連携教育を推進してきました。現在、管内全6中学校区に小中連携組織があり、教育内容は充実してきています。実態としては、文部科学省の「小中一貫教育」に近い取組と成果があります。さらに、平成27年度は、学力向上の取組の中心に、複数校による授業づくりへの挑戦と銘打って、小中連携による授業改善と学力向上に取り組んでいます。小学校・中学校の独自の役割を果たすことや全く環境を変える「進学」を経験させることが必要と考えています。</p> <p>なお、小中一貫校については、小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部改正もあることから、他市町の動向も踏まえながら、今後の研究課題と考えています。</p> |
| 3 | 保育料1人目から無料でよいのでは？ | <p>保育料の無償化は、少子化に歯止めをかけ、子どもが健やかに成長できる環境を整える施策の一つとして必要と考えます。</p> <p>無償化の目的や期待される効果を明確に示し、待機児童の解消と併せ質の向上も目指して必要となる財政的負担の見通しを立てる中で、優先すべき施策は何か今後論議が必要です。</p> |
| 4 | 不妊治療費全額補助ができないか | 現在も県の不妊治療の承認を受けた人を対象に助成を行っていますが、一般財源での対応となるため、全額補助は財源の確保が課題となります。 |
| 5 | 子供服を買う場所がない | 需要に応じた出店等民間の原理もあり難しい面もありますが、P19「施策番号130 企業立地の促進」の中で取組みを進めます。 |

第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会 意見回答

| 番号 | 意見の概要 | 回答 |
|----|---|---|
| 6 | 特に雨の日の遊び場がない | 土師ダムに大型遊具を備えた児童公園を整備しています。雨の日の遊び場は課題ではありますが、当面は近隣の市町の施設も利用いただくなどお願いしたいと考えています。 |
| 7 | 公民館廃止になったら活動拠点がない | 当市では、平成25年10月末、向原公民館の廃止により、市内全ての公民館を廃止しました。その代わり、合併以来懸案となっていた向原地区における生涯学習活動の拠点施設として、向原生涯学習センターみらいが整備されました。この結果、市内全ての町にホール機能を有する文化センターが整備されました。（吉田地区に2館ありますので、全体では7館です。）また、その内、5館は、公立図書館との複合施設であり、いわゆるこれまでの公民館機能に加え、図書館、そしてホール機能を有する施設を整備したことになります。それらは、公的には公民館類似施設に分類され、各町域のこれまでの公民館機能を含め、生涯学習活動の拠点施設、様々な活動団体の拠点として利用いただくことを目的に整備しています。但し、当市の財政状況としては、これまでの既存の公民館を残して、文化センターを整備することは厳しく、また、既存公民館が全て、老朽化が激しく、公民館から文化センターの整備へ施策を進めてきております。尚、各町に整備したとはいえ、利用範囲を、各町域に狭めたものではなく市全体を対象とし、また、使用料を設定し、市外利用も可能としていますので、市全体の文化センター利用に係るルールを統一して利用に供する必要があり、施設使用料も受益者負担をお願いしておりますことについては、ご理解をいただきたいところで |
| 8 | ずっと住みたいと思う市民の割合は44%しかない。住み続けるには何が必要かを明らかにし、整理することが重要。 | 「住み続けたい」と回答した人の理由は、「自分の土地や家がある」が42%を占め、逆に「住み続けたくない」と回答した人の理由は「通勤・通学等が不便」が14%、「医療・福祉サービスが充実していない」が8%を占めています。これらのアンケート結果を踏まえると、交通網や医療・福祉サービスの充実を図ることで、都市部との格差が無くなり定住に繋がるという考えもありますが、直ぐに効果が表れにくいと思われます。現在の新公共交通システムの利便性の向上や中核病院である吉田総合病院等との連携を図りながら交通網や地域医療体制施策の充実を図っていきます。 |

第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会 意見回答

| 番号 | 意見の概要 | 回答 |
|----|---|--|
| 9 | <p>空き家への居住を推進するのはよいが、行政区の行事に参加が課題。市が斡旋するならフォロー必要では？</p> | <p>本市で取り組んでおります、空き家の有効活用策として、移住・定住又は定期的な滞在をお考えの方に対して、空き家情報を発信し、都市住民との交流拡大及び移住・定住促進による地域の活性化や人口流出の抑制を図るため空き家バンク制度を推進しております。</p> <p>空き家利用者が地域で生活するには、地域の風習や慣例的な活動など認識され、いち早く地域に根付くことも必要ですが、反面、都会との違いに戸惑いながら生活されることも事実です。</p> <p>本年4月から、移住定住を担当する「地域おこし協力隊」を雇用しております。自らも定住を目標に空家等の利活用に対しては、利用者の相談窓口とし助言を行い、よりニーズに合った物件の情報発信を行っています。</p> <p>いずれにしましても、地域の皆様のご理解ご協力は不可欠です。</p> <p>ご指摘のことにつきましては、空き家相談の担当窓口として、十分認識し進めてまいりたいと考えます。</p> |
| 10 | <p>心の豊かさがUターンにつながる。教育面でシステムが必要では？</p> | <p>本市では昨年、「ふるさと安芸高田市」について学び、郷土に対する自信と誇りを持ち、それぞれの舞台で活躍してほしいとの願いから、郷土理解学習副読本「安芸高田市ものがたり」（小学校編）と「郷土!安芸高田市」（中学校編）を発刊しました。</p> <p>これら副読本を活用した郷土理解学習により、「ふるさと安芸高田市」に関心を持ち理解を深めることで、ふるさとを想う心を育てていきたいと考えています。このことが、将来、大学や就職で一旦ふるさとを離れた若者の、Uターンにつながればと考えています。</p> |
| 11 | <p>交通・宿泊を含めた観光面において、芸備線の駅周辺の整備が必要では？</p> | <p>芸備線は沿線住民の通勤・通学、買い物等の交通手段として、また広島市と県北3市を結ぶ都市間交流として、更には地元の観光振興や産業振興に繋げる手段として必要不可欠なものです。市内3駅の乗降者数は平成22年以降減少傾向にあり、乗降者数の増加を図るためには、各駅から市内観光施設へ誘導させる交通手段の確保が必要と考えます。また、駅周辺の宿泊施設については、民間による建設は難しいと考えますので、観光客のニーズを把握しながら民宿や民泊等の手法により対応を検討してまいりたいと考えます。</p> |

第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会 意見回答

| 番号 | 意見の概要 | 回答 |
|----|--|---|
| 12 | 学校の統廃合はコミュニティを著しく低下させると思うが。 | 学校が地域の活動センターになり、にぎわいを作り出していることは理解しています。検討委員会においても、様々な議論がされましたが、子ども達にとって何が良いかを検討されて、規模適正化の結論となりました。 |
| 13 | 学生が地元に戻るか？働く場がなく帰らない。学生にとっては就職有利な大都会へ。就農支援を積極的にしては？ | 市とJA広島北部で4,000万円の基金を造成し、「農業後継者育成支援事業」により農業技術大学の学費等の助成を行っています。これにより現在までに8名が支援を受けており、卒業後は法人へ就農した者やJA契約職員として研修を受けている者などがあります。今年から吉田高校、JA、市の連絡会議も設け、情報の共有を図りながら若い農業後継者の育成を図っています。また、国の青年就農給付金の活用も積極的に行っています。（現在まで13名） |
| 14 | 大学のキャリアセンターに農業学校の求人案内や地元企業の求人案内を積極的に出してみてもは。 | 農業大学の入学案内については検討します。地元企業の求人案内については、機会のあるごとに企業に対して呼びかけます。 |
| 15 | 施策番号118「担い手確保と就農支援」では、女性の就農支援も取り組みの中にあつた方がよい。 | 女性の就農支援についても盛り込みます。 |
| 16 | 施策番号119「農業生産の振興」では、産直市の販売額が目標となっているが、取組には産直市が触れられていない。 | 産直市の充実による農家所得の向上についても盛り込みます。 |
| 17 | 高齢の方が、安芸高田市でゆっくりと人生を送る施策も一つの手である。 | 市民総ヘルパー構想に基づき、地域包括ケアシステムの構築を推進することで、高齢者の方が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活ができるようにしていきます。 |

第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会 意見回答

| 番号 | 意見の概要 | 回答 |
|----|---|---|
| 18 | 木材の活用、地域材の活用、循環が雇用にもつながる。木材活用の方向性を示す必要があるのでは？ | 安芸高田市の林業を取り巻く環境は、全国的な流れの中で、例外なく非常に厳しい状況にあり、これまでの、植林し、木を育て、建築材として伐採し財を得て、また植林するというサイクルは成り立たない状況です。こうした中、新たな木材活用の流れの一つとして、木材をエネルギーとして活用することが注目されています。安芸高田市においても、新たな方向性として、木材をエネルギーとして活用することを推進していく転機に来ていると考え、例えば市内宿泊施設のボイラーを木質バイオマス燃料とするものに変え、安定的な需要を作り、燃料を供給する仕組みを構築することにより、雇用を生み出すことを検討していきます。また、大きな目標の一つとして、木質バイオマス発電所の建設誘致を行い、再生可能なエネルギーとして、地域の森林を計画的に伐採し、育て、循環させることにより、森林作業と発電所で大きな雇用を生み出したいと考えています。 |
| 19 | 求人広告を出しても応募がない。積極的に情報発信を行うことが重要。 | 「若者の定住促進プロジェクト」の「施策①働く場を整える」に記述の施策を推進していきます。 |
| 20 | 総合戦略は施策が多すぎてピントがぼけている。優先順位を決めて選択と集中が必要。 | 地方創生交付金を活用し事業をするためには総合戦略への記載が必要なため、最上位計画である総合計画に記載の施策は基本的に総合戦略へも記述することとしました。市としてはどれも大切な施策であり、様々な分野に渡るため優先順位をつけることは難しい面があります。総合計画のリーディングプロジェクトで主要施策に位置付けられているものを、総合戦略でも主要施策と位置付け重点的に取り組むこととなります。 |
| 21 | 市の特徴である高齢化を活かして、それを売りにして高齢者人口を増やすのを考えてはどうか | <p>高齢者といえども元気な方は多くいるため、田舎暮らしを希望する都市部の高齢者に対してニーズ把握を行い、定住に繋がる策を講じることは人口増に寄与すると考えられます。また、老人福祉施設の整備による人口増加対策については、サービス利用者のニーズを踏まえたうえで策定する高齢者福祉計画等への位置づけが必要であるため、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>地域や家庭で安心して暮らせるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援などのサービスを切れ目なく提供できる体制を推進することで、人口増につなげていきたいと考えます。</p> |

第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会 意見回答

| 番号 | 意見の概要 | 回答 |
|----|--|---|
| 22 | 小原地区の取り組みなどに対して、それを支える人材育成システムに関する施策が必要では？ | 骨子案にも書いておりますように、地域づくりに関する先進事例や人材紹介、各種助成制度等、情報提供の充実を図ることや、地域おこし協力隊等、外部人材の活用により、地域の取り組みを支える事としています。 |
| 23 | 定住の受け皿になる地域に対して、住みやすさをフォローするための事務・機能をサポートする中間支援機構的な取り組みが必要ではないか？ | 安芸高田市を知らない移住者が直ぐに地域に溶け込むことは難しいことです。ご指摘のとおり、移住者と地域を仲介する人の存在は、移住者が安心して日々の生活を送ることができることにも繋がります。心強い味方になる。地域の受け皿として考えられる地域振興会等を含め、今後の検討の参考とさせていただきます。 |
| 24 | コンソーシアム組織の機能継続について市で取り組んでいただきたい。 | コンソーシアム機能の継続については、市で取り組むよう検討します。 |
| 25 | 広島市から安芸高田市に2千人就労あり。住みやすさを高めればこれらの就労者の定住に結びつくのではないか。 | 課題は多いが、総合計画や総合戦略に掲載の施策により、まちの魅力を高めていくことで、定住につなげていきます。 |
| 26 | 入団体験などで神楽を周知し、田舎体験などで安芸高田に呼び寄せる企画はどうか。 | <p>安芸高田市を知らない人にとっては、安芸高田市の気候や風土、特徴、住む地域等がどのようなところか知った上で定住の判断を行うこととなります。そのため、お試し暮らしなどの田舎体験は一つの手段として考えており、ご意見を参考とさせていただきます。</p> <p>現在、市内の小学6年生を対象とした「神楽ワークショップ」を実施しており、伝統芸能継承の機運を醸成しているところです。また、市外へ向けるとしては、安芸高田市内での周遊性を高めるために、着地型観光を検討しているところです。着地型観光では、安芸高田市らしいプログラムを提供する必要があると考えており、神楽体験、田舎体験、農業体験等を関係者と協議しながら、具体化に向けて検討していきます。</p> |
| 27 | 土師ダムの公園運営について、平日は高齢者に管理をお願いし、週末は家族連れが利用するような仕組みを作ってはどうか。 | 土師ダム周辺管理は指定管理施設として、管理委託を行っております。基本的には委託先の運営方針によることとなりますが、ご意見については委託先に伝えます。 |

第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会 意見回答

| 番号 | 意見の概要 | 回答 |
|----|--|---|
| 28 | <p>高速バス停付近暗く整備が不十分。せめて木を切って明るくするなどお金を掛けなくてもできることはあるのでは？バスの利便性も良くなれば通勤・買い物にも良い。</p> | <p>高速バスの利用者は日中だけでなく、朝、夕、夜と時間帯は様々です。とりわけ夜間の利用時には人気がなく、利用者にとっては不安を感じる一面があります。ご指摘の改善点については、対処していきます。</p> |
| 29 | <p>土師ダムの遊具は土曜日には子どもが多い。これを生かして収入につながるか。</p> | <p>遊具を有料とするには人的配置等で難しいと思われます。遊具は土師ダム周辺施設の誘客促進を目的として設置しています。隣にはBMXコースがあり子どもたちが集まっており、スクールの開催などや、子ども連れの観光客が遊具で遊んだ前後にサイクリングターミナルで食事等をするなどで収入としてつながっているものと考えます。</p> |